ジュエリーのフロントランナー

5 Women Jewelers

身につける女性がデザインし作るジュエリーは、ファッションとの調和を強く意識したものや、自分が憧れてきた夢溢れるジュエリーが目立ちます。ボリュームがあり、しなやかで、動きのあるジュエリーは、まるで現在の女性たちのアクティブで、ポジティブな意志を象徴しています。ジュエリーライターのオリヴィエ・デュポンが、今、輝いている5名を選び、ロングインタビューを行いました。

Text=Olivier Dupon Translation=Muramatsu Chihiro

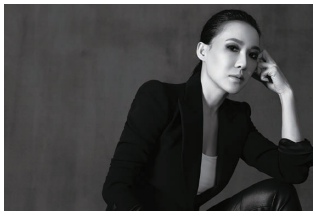
Olivier Dupon is a 21st century tastemaker and author of Fine Jewelry Couture (2016), SHOE (2015), Encore! The New Artisans (2015), Floral Contemporary (2014), The New Pâtissiers (2013), The New Jewelers (2012) and The New Artisans (2011), all published by Thames & Hudson.

鹿ブローチ。メインのエメラルドは 10.07ct、六角形シェイプ。K18・チタン・エメラルド・ダイヤモンド・サファイア。

羽ブローチ。チタン・エナメル・ファンシーイエローダイヤモンド。縦約18cm。2017 年、クリスティーズ香港に出品。USD1,121,932 で落札。

Cindy Chao　台湾

シンディ・チャオ 、真髄は「身につけるアート」



有機的で立体的が特徴のシンディ・チャオの手仕事は、彼女の父が彫刻家、そして祖父が台湾で有名な寺院の建築を手掛けていることに大いに影響を受けていると言えるでしょう。

大ぶりサイズを好み、大作のいくつかにはチタンが使用されています。単一の大粒の石に希少石が寄り添っていたり、まるで宙に浮いているようにセッティングされた作品が多く見られます。この対比が、石の美しさを強調、流れるようなパヴェの群れの中に荘厳な輝きを放ちます。言い換えれば、魅力的な石たちが高貴なマグマから出現するといった感じです。

熟練の職人技と芸術性の融合を追求していくことで、シンディは自身の代表作ともいえる作品を発表しています。例えばバタフライ。ブローチで展開する 2008 年以来毎年制作しているシリーズで、最新作の「ブラックレーベル マスターピース ジュエル」は、彼女の作品の中で最も評判の高いものです。

シンディの素晴らしい作品は、彼女が実際見たり新たに学んだりしたことがきっかけになっています。14 年以上前から彼女のブランドは、高級ジュエリー、純粋に芸術作品、そして身につけることができる魅力的な彫刻として、百戦錬磨のコレクターたちに熱烈に支持されています。

www.cindychao.com

Q4　あなたのデザインの多くは石が浮いているように見えますが、その秘密は？

CC　例えば、冬の葉のネックレスや冬の葉のブローチは、一部のコレクターも私にダイヤモンドが浮いているように見えると話すけど、実際同じ位置でセッティングしていて、視覚効果によるものなの。私はよくさまざまな大きさのいろんな石をセットするのだけど、それは慎重に計算されたもので同じ高さの位置に、平らにセッティングされているわ。触ってみればなめらかで、同時にジュエリーのうねりやゆがみが際立っていることに気づくはずよ。

Q5　デザインに何か台湾らしさを入れていますか？

CC　クリエイターとして、私は自分の作品においては努めて文化、言語、そして国境を打ち破ろうとしているの。たとえば、フォーエバーマーク（デビアス）とコラボ制作した王朝の美しい扇子 Majestic Beauty Fan は、古代中国の扇子をヒントにしたもので、世界でも大きなダイヤモンドをセットしたアート作品の一つ。そうは言っても、私のデザインの目に見えない部分には台湾的なものがあることは認めるし、注目すべき点ね。台湾人には、継続と根気の文化が根づいているの。それは、どんな障害も乗り越えて自分のゴールに向かっていくというもの。私はジュエリーを作る時、技術面でどんな難しいことにもあきらめないわ。

Q6　特に女性のためにデザインする上で、同じ女性として気を付けている点は？

CC　女性のクリエイターとして、私は女性がジュエリーを身につける習慣に着目している。女性は軽いものが好きよね。重いイヤリング、ブローチは敬遠されがち。そういう理由から、私はジュエリーの軽量化について常に研究しているわ。

バタフライブローチ。K18・チタン・ダイヤモンド・サファイア。2012年のクリスティーズ・ジュネーヴのオークションで、USD952,866で落札。

魚のブローチ。31.18ctの巨大なエメラルド、107.79ct のダイヤモンドを用いて制作。

ウィンター・リーブス・ネックレス。エナメル・チタン・ファンシーカットダイヤモンド。

5 Women Jewelers

Q1　制作の上で、一番の思い出と言ったら?

CC　幼少期、彫刻家の父のそばにいて、彼から彫刻についていろいろ学んだわ。ジュエラーとなって、2011年父と二人で「ブラックレーベルマスターピース XVIII」、牡鹿のブローチで仕事をした。ブローチは、あまり見ない八角形の形をした 10.07ct のエメラルドにパヴェダイヤと色石総計 30.42ct のパヴェを使ったの。父が本物そっくりの鹿の彫刻を作り、私がそこに手を加えた。制作の過程を通して、牡鹿の形やイメージについて私たちの間では口論になり、かなり激しい喧嘩もしたわ。お互い個々の解釈についてそこが一番重要な点だったから。でもハイレベルで共鳴する部分を見つけるために、二人で切磋琢磨して過ごした日々はとても楽しかった。

Q2 あなたが好きな伝統的な技術や自社で開発した技術を知りたいのですが。

CC　ワックスによる彫刻ね。立体的なワックスのモデルを実物大で作り、最終的にそれがジュエリーになる。新しい技術を開発するというより、スタッフたちと伝統の限界をさらに超えることに挑戦するということかしら。

Q3　バタフライシリーズについて詳しく話してくれませんか?

CC　チョウの寿命は、はかなくもあり純粋でもある。短期間の間にさまざまな形に変化する。こうした変化は、私がアーティストとして経験していることと似ているような気がするの。形を変え、自分自身を制作意欲へと掻き立て、何か純粋で美しいものを分け合う。完成作品よりも自分の命の限りまで推し進めることにスリルを感じるわ。私は 2008 年から毎年チョウだけに命を懸けているの。

イヤリング。K18 レッドゴールド・シルバー・
天然真珠・ロッククリスタル・ダイヤモンド。

イヤリング。K18WG・シルバー・天然真珠・
クンツァイト・ダイヤモンド。

Nadia Morgenthaler スイス

技術向上に取り組む、ナディア・モルゲンターラー

「私は、クリエイティブなジュエラーだと思っている。それも素敵なものが好きで、技術面にも果敢に挑戦していく。私の作品は見た目だけではなく、それぞれの制作方法において完璧なの」と自信満々のスイスの高級ジュエラー、ナディア・モルゲンターラー。この言葉に彼女のすべての才能が包括されていなくとも、その通りだと私は思います。複雑な造形を美しく融合させることに情熱を傾ける優れたアーティスト。すべては、ほとばしる想像力から発せられます。

創造の全過程（デザインと制作）において、彼女の頭と時間は、完璧な作品の完成に費やされます。たとえ美しさが主観的なものだとしても、それは、確かな質に裏打ちされたものであることには間違いなく、それこそが彼女の作品を輝かせる所以なのです。

自身の工房を運営しながら、高級ジュエリーにおいて試作を繰り返し、技術を重ねてきた一人として、仲間たちとともに常に既存の殻を打ち破ってきました。現在のロマンチックで柔和な作品は、熟練した細工師のレベルであり、それは洗練されたパステルの色合い、金属の卓越した組み合わせ、そして希少な天然パール使いに見られます。精巧な作品リストは、ナディアの作品の本質と定義づけられていますが、御墨付きの高級ジュエリーにありがちな威圧感はありません。

https://nadia-morgenthaler.com/en/

点と張力が違うため、変形してしまう。長所は、酸化銀は、見た目がよくなること。黒の色合いは、宝石に個性を与え強調させる効果がある。それに古の世界の息吹を思い起こさせる。レッドゴールドについては、作品に力強さをプラスするし完成度も高くなるの。2つの色のコントラストは、モチーフを強調してくれるわね。

Q5　1点1点とても繊細で美しく、熟練の職人の卓越した技が見られます。コレクターにそれを認識してもらうために、啓蒙していますか。

NM　本当にその点を伝えるのは、とても重要なこと。宝石に美しさと個性をプラスする質の高い仕事に、職人の時間をかけた技。宝石が高価になるのはそのため。まさに「時は金なり」よね。

Q6　ところで、なぜ天然パールにこだわるのでしょうか？

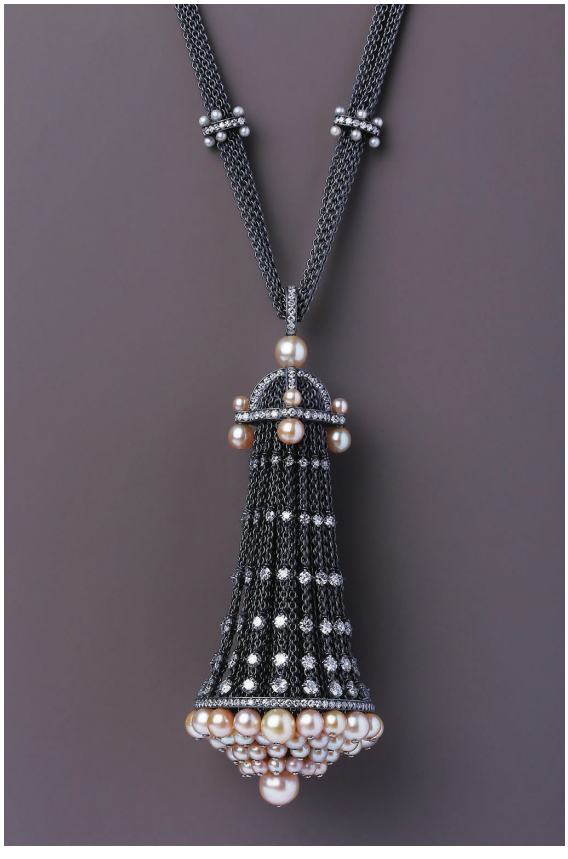
NM　私は、やわらかくて虹色を放つパールがとても好きなの。パールは数々のおとぎ話に出てくるでしょう？　例えば『千夜一夜物語』、マハラジャの空想やロシア皇帝の暮らしとか……私はいつもそんな話にうっとりしてしまうの。その上自然からの贈り物、本来の美しさを表すには何ら手を加える必要を感じていないわ。

Q7　制作スタイルには歴史から影響を受けたものはありますか？

NM　2つ以上あるわ。例えば若い頃、中世のアートに興味があって、その代表的なものが絵や服やジュエリーだった。それに金属の建物（工業建築物）や1900年代の建築にも影響されたわね。

イヤリング。K18 レッドゴールド・シルバー・
天然真珠・トルマリン・ダイヤモンド。

イヤリング。K18 レッドゴールド・シルバー・
天然真珠・ピンクスピネル・ダイヤモンド。



ネックレス。K18WG・シルバー・天然真珠・
ダイヤモンド。

5 Women Jewelers

Q1　何があなたをジュエリーデザインへと駆り立てるのでしょう？

NM　頭にあるアイデアがぼんやりと浮かんだら、それをどんなふうに進化させるかその過程を考え、感動するのが好き。下描きに始まり、厳選された宝石やパールをセッティングした 3Dの触れられるものになる重要な制作段階へと進み、最後に完成品となる。製品の成功が見えた時、制作を始める段階で感じた時よりも大きな感動を実感することができるの。

Q2　かつてのコンテンポラリー／コンセプチュアルジュエラーとしてのあなたと今のハイジュエラーとの間にはまだ「つながり」がありますか？

NM　もちろんよ。創造の方法に関して密接なつながりがある。現在と過去で同じ工程を当てはめてきた。ただしコンテンポラリー／コンセプチュアルジュエリーは、身につけられること、または素材にはあまり高価なものを使用しない。昔ながらの技術をその限界まで推し進める点も同じ。境界を広げることは、効率の良い技術的な解決策の助けにもなるのよ。

Q3　あなたの工房についてもう少し詳しく教えてください。

NM　私の工房は、仕事の質の高さではとてもよく知られているわ。仲間たちはエキスパートで、自身の仕事についても厳しい人たち。期待に応えてくれる質の高い仕事をしてくれるわ。工房は、まさに解決策を探す実験室。設立して 20年経つけれど、特別なジュエリー作品を制作できる場所よ。

Q4　ブラックシルバー、レッドゴールド、合金の難しさとメリットについて聞かせてください。

NM　短所は、2つの金属を混ぜることが難しいこと。2つの融

Eliane Fattal　イギリス

忘れられたジュエリーを甦らす、エリアヌ・ファタル

42.91ctのイエローダイヤモンドに12.96ctのエメラルド、8.73ctのホワイトダイヤモンド、水滴の部分に1.85ctのブリオレットカットダイヤをセットしたブローチ。

エリアヌ・ファタルが、宝探しのプロあるいは、忘れ去られていたジュエリーを蘇らせることに夢中な錬金術師へと方向転換したのは、全く思いがけない偶然からでした。彼女は大学で芸術史を学び、その後写真の技術を習得、ひょんなことから宝石の世界に入るまでの 20 年間は、写真家としてのキャリアを持っています。

1990年代婚約指輪が見つからず、ボンドストリートの宝石業者を渡り歩いた結果、目を引くのは希少で美しいカットだと気づき、アンティークジュエリーのメッカ、ＳＪフィリップスの門をたたきます。彼女は、「パンジーの大粒ダイヤモンド・ブローチに一目惚れ、それがすべての始まりだったの」と当時に思いを馳せます。

ロンドンのアンティークジュエリー業者と長期間にわたる共同作業で才能を開花。そのアーカイブからエリアヌは、自身の才能で手を加えることで、埋もれていたアンティークジュエリーを掘り起こしていきます。つまり、徐々に失われていく宝石たちに新しい生命を吹き込んでいるのです。

「もとの宝石は、私が必要と思うすべてを与えてくれる。その宝石と仕事をしたいかそして何をするべきなのか、私はその宝石を見た瞬間にわかるの。もちろん芸術品の整合性を保つことは最重要事項ではあるけれど、ロンドンの工房と互いに共通した修正点を見つけ、歩み寄って仕事をすることも必要ね」

さらに「自らストーリーを語ってくれるジュエリーが好き」とさりげなく話すエリアヌ。それを「知的なジュエリー」と彼女は呼んでいるのですが、私も全く同感です。

www.elianefattal.com

デマントイドガーネットに、ダイヤモンド、ルビー、ゴールドのカブトムシとハチのブローチ。カフスボタンとして生まれ変わった。1890年頃。

EF　私が仕事で関わってきた多くがヴィクトリア朝のもので、産業革命に対する反動として動植物がとても流行した時代。そしてそのモチーフは、イギリス全土の文化として、芸術、デザイン、文学、そして園芸そのものにも広く生き渡っていったの。

Q5　ヴィンテージジュエリーは、よくステータス、オマージュ、隠しメッセージ、告白など意味を含んでいますが、あなたは作品にどんな思いを込めていますか？

EF　それぞれの作品は、お手製の本の外箱から生まれたの。本は、私たちがちょうどその歴史的な作品が活躍した時代にいるという記憶をたどるのにとても大切なもの。そしてその作品が象徴するもの、意味するものは、私たちが本の裏表紙に書き綴りながらずっと忘れていたような永遠不滅のもの。私は本棚の本の外箱に宝石を隠しておくアイデアも好き、アガサ・クリスティーの小説のようにね！

Q6　あなたの作品で変型していろいろな用途に使えるものがありますが、それはヴィンテージからヒントを得たもの？　それとも、デザインしているうちにひらめいてくるのでしょうか？

EF　「変型」は私のデザインで大きな割合を占めるわね。現代の女性は身軽に旅行に出かけるし、私自身も週末外出するのが好きだから、一つのジュエリーで、いろいろな身につけ方ができるものがいいわね。

Q7　毎年どのくらい数のヴィンテージジュエリーを見ていますか？その中から何点くらい自分の基準に合いますか？

EF　SJフィリップスからやってくるものすべてを見ているんだけれど、その多くは、サイン入りまたは完璧なもので、私が触れるものではないわ。私が仕事したいと思うジュエリーを見つけるのは至難の業。それはほんのわずかで、私は 1年に数点しか巡り合えないわ。

ダイヤモンド、ルビー、デマントイドガーネット、サファイア、エメラルドをセットしたネックレスとイヤリングのセット。

愛と憧れの象徴、満開の野ばらをモチーフに、クッションカットやペアシェイプのダイヤモンドをセッティングしたアシメトリックなイヤリングセット。つぼみや葉は、クッションカットをオープンセッティングにしてあるため強い輝きを放つ。1890年頃。

愛と究極の犠牲の象徴、満開のバラをモチーフにゴールドとシルバー使い、ダイヤモンドのパヴェセッティングしたリングとバングル。樹皮を想わせる木の幹やゴールド製のトゲ、朝露を表すダイヤモンドなどがデザインされた曲線が、手や腕に自然にフィットする。1860年頃。

5 Women Jewelers

Q1　今日のあなたがあるのは、あなたのどういう性格からだと思いますか？

EF　単純で決断力があることかな。私はきちんとした宝石の勉強をしていないから、逆に何でもできると思うのね。私の工房で働く人たちは、純粋な職人以上のことをしているわ。彼らはエンジニアであり、開発者、そして私が今までにない魔法を起こす時の決断者でもある。

Q2　どういういきさつからSJ フィリップスとの共同事業が始まったのですか？

EF　自分自身のジュエリーを何点か作った後、他の人たちの反響を見て、SJフィリップスのディレクターのところに戻ったの。そしたら、若い顧客とのつながりを模索していると相談されて、2週間後にお呼びがかかり、それがコレクションを一緒にやらないかということだったの。少し考える時間をもらって、基本的には私はほんの少しだけ関わるということで合意した。ショーケースの作品を匿名でディスプレイする、それも写真家としての仕事に差し障りがない程度にということだった。その半年後には 22点を展示、多くのメディアのあちこちに私の名前が載ってしまったの。まさにウディ・アレンの名言、「あなたの将来は神のみぞ知る」よね。

Q3　あなたが歴史家であることが、現在と過去と結びつけるのに重要だったと思いますか？

EF　私が過去に芸術史を学んでいたことが、今の人生の上で役立っていることは間違いないわね。当初、SJフィリップスが私に紹介してくれた歴史的な作品に関心を持ったのだから。いつも感じるのだけれど、こんなに美しい作品がもはや世に出ることも愛されることもないことには、悲しみを禁じ得ないわ。

Q4　あなたのデザインに動植物が頻繁に使われるのはなぜ？

Bina Goenka　インド

インドのアーティスト、ビナ・ゴエンカ

モザンビーク産ルビー合計156.20ctを用いたカフス。K18WG・ダイヤモンド・ルビー。

6.38ctのエメラルドカット・ダイヤモンドが強い輝きを放つ。リング。K18YG・ダイヤモンド・イエローダイヤモンド。

遊び心のある大胆なボリュームを難なくこなすインドのアーティスト、ビナ・ゴエンカ。彼女はジュエリーに贅沢さと複雑さを完璧に融合させる、あるいは錯綜と複雑さをより多く加えることでジュエリーをより豪華にする稀有なハイジュエリーデザイナーの一人。その凝った作りは、見る人を飽きさせません。まるで美術品のように、作品の奥深さを常に実感できるはずです。活力や華やかな色彩を含んだインド人ならではの嗜好がそこかしこに見えるそれぞれの独自の作品は、オリジナル性と希少性に富んでいます。自然の素晴らしさへの大いなる賛辞は、立体的で、宝石でびっしりとちりばめられた視覚的なたとえにふさわしいと言えます。

興味深いことに、ビナは、ここ数年あまり新作を作っていないのですが、今年は6点だけ大切な作品を発表するつもりだとのこと。でもそれもあっという間に完売してしまうことでしょう。

ロイヤルファミリーをはじめとする顧客たちは、やがて彼女の作品のコレクターになります。彼女は、「お客様は、私たちが取り組んでいる最新の素材や石についてより深く知ることで、私たちが最高の素材を調達し、それでハイジュエリーの特別な作品を作っていることを確信します」と語ります。

真のハイジュエリーとは、量ではなく質であり、身につける芸術作品へと到達していくのです。

www.binagoenka.com

で役割を果たしているわ。私が最も重要だと思うのは「根気」。私は自分の望みをきっと実現させる。そのためには常日頃、問題を解決しようと取り組んできたの。もう一つは、忍耐力ね。

Q6　デザインの中に典型的なインドを感じさせるものはありますか？

BG　インドは、いつも何かヒントをくれる。文化のるつぼで、すべてが接近している。そして、多様な色や華やかさをどこでも見ることができるわ。この２つの特性が私のデザインには取り入れられていて、大胆な作品となっている。

Q7　スタートした頃と比べ、美的な部分でどんな変化や進展がありましたか？

BG　作品がより洗練され、素材がより高価なものになったわね。今制作しているものは、ハイジュエリーの芸術品ね。

Q8　工房での仕事に熱心なためか、作品は本来の作品以上のものになっているようです。あなたのお気に入りの伝統技術や自身の工房で開発された技術についてもう少しお話を聞かせてください。

BG　技術改良もしているけれど、すべて手作業で行っているわ。繊細なワイヤーの仕事が好きで、それがビナ・ゴエンカの技術の特徴にもなっている。パールを使った仕事も楽しんでやっているわ。

Q9　希少なパールをよく使われていますが、それはなぜ？

BG　一目惚れなの。パールを使って仕事をする時は、いつも同じ感情が湧き上がってきてしまう。今では、希少な美しいコレクションの中にパールシリーズもあるわ。

イヤリング。K18・エメラルド。

イヤリング。K18WG・コンクパール・ダイヤモンド。コンクパール 18.65ct

デコルテに自然に沿う「ヤシの木ネックレス」。
K18・ダイヤモンド・天然真珠。

5 Women Jewelers

Q1 あなたの創造哲学を最もふさわしい言葉で表すとすれば？
BG 調達可能な素材を使い、デザイナーの美学を注ぎ込みながら純粋な自然のデザインを持ち続けていること。

Q2 「これこそが私がやりたいことだ」とわかったのはいつ？
BG ジュエリーは、私のバックグラウンドにはなかったけれど、常にクリエイティブなことが好きだったの。家族が法律家や学者だったので刑法を学び、そのキャリアを積んでいくつもりだったのだけれど、結婚して家族との生活が介在してきた。その時自分が使うためのジュエリーを作っていたのだけど、プロフェショナルになると感じた。それは全く自然な成り行きだったわ。

Q3 仕事で最も重要なことは何ですか？
BG 素材が本物かどうか、まずはそれが重要な要素の一つ。出所もまた真偽を通して立証される。本物であることが確定した上での気配りや努力が、この業界においてハイジュエラーとその他を区別するものだと思う。

Q4 自身の作品で一番の思い出は？
BG 義姉の作品を作った時のこと。私が手がけたものの中でも最高に美しい 1点で、もうこれ以上手を加える必要はないと思うくらいよ。他に、2008年に制作したブローチ。リチャードという名のヤモリで、ジュエリーデザインの世界で何ができるのかを日々思い出させてくれる。今では、ブランドのマスコットでもあるわ。

Q5 今のあなたがここにいるのは、あなたのどんな性格からだと思いますか？
BG 創造するための応用力、そして性格がこのブランドを作る上

Lorraine Schwartz アメリカ

レッドカーペットを支配した、ロレーヌ・シュワルツ

23.38ct のダイヤモンドをスパイラル状にデザインしたイヤリング。K18WG・ダイヤモンド。

有機的なデザインのイヤリング。K18 エメラルド・ピンクダイヤモンド・パライバトルマリン。

あなたはきっと驚くことでしょう。なにしろハリウッドのレッドカーペットのイベントで身につけているものにロレーヌ・シュワルツ作のものを見ない日はないのだから。A ランクのスターたちが着用している、誰もが振り返るようなリビエールネックレス、肩にぶら下がるようなショルダーダスティングと呼ばれるイヤリング。ゴージャスな・シュワルツの作品なら、パワーをもらえることは間違いありません。華麗さと自由奔放な感性。その背後には、希少な石選び、石を美しく見せることに真面目に取り組んでいるという事実も包み隠さず表現されています。

作品を知ると、ロレーヌがアメリカのダイヤモンド業者の 3代目であるのもうなずけますが、さらにそこに彼女の素晴らしいデザイナーとしての才能が加わっていることがわかります。それは、ハード面（石の重さや希少性の面）、ソフト面（コレクターたちを大切に思い、重要な慈善事業に情熱を注いでいる）の双方に惜しみなく反映されています。大胆なハイジュエリーに関してロレーヌが受け継いでいるものは、さまざまな抑圧から解放することに一役買っており、彼女自身、重みのある大ぶりの石がどれほど官能的なものなのか本能的に知っている女性なのです。彼女のジュエリーは大胆不敵、それは女性たちに自身の女性らしさを恥じることはないと強く主張しています。

www.instagram.com/lorraineschwartz

とで、私はいくつかの財団に関わっているわ。残念ながら母が15年前に癌で他界してしまい、慈善活動はこうした病気の患者を支える内容になっている。私が働いている主要な慈善事業のうちの2つは、ガブリエルの天使財団と肺移植プロジェクト。

Q6 あなたは仕事柄、ダイヤモンドを取り扱っていますよね？ 何かエピソードを教えてください。

LS もちろん。私はとても美しくて希少な石を扱っていて、それは、世界中の 60ctのピンクカラーから 200ctまでのダイヤモンドまであるわ。今、パワフルでゴージャスなカラーストーン、例えばパライバ、コロンビアのエメラルド、希少なカラーダイヤ、パパラチアサファイアなどに惹かれているの。

Q6 金銭面と精神面、二つを投資にどのように一致させるのでしょうか。

LS ロレーヌ・シュワルツ社では、顧客が何を買うべきなのか、私たち独自の方法で教えているの。石に顧客を結びつけるのね。石は顧客の要望を分析して決め、調達する。彼らは私たちと一緒に、特別で貴重な体験をする。もちろん、顧客の作品に個性や特別な注意を払うこともしているわ。

Q7 あなたの作品を身につけ、コレクションしている女優のリストを知ると、まさに他に敵なしといった印象ですが、ここまで到達されたのはまさに神業。どのようにすれば、このレベルに達するのでしょう？

LS 私はいつもゲームのトップにいようと努めていて、最新で、最もクールな作品を作っている。上を目指し、個性的で特別でいたいと感じる人たちをバックアップする。それが私の使命なの。

黒いヒスイを用いたモダンなイヤリング。
K18・ゴールド ダイヤモンド・黒ヒスイ。

ダイヤモンドのセッティングの方法がユニーク。
イヤリング。K18・ダイヤモンド・サファイア。

シャンデリアのように揺れるイヤリング。
K18・ダイヤモンド・エメラルド。

5 Women Jewelers

Q1　あなたをジュエリー制作へと駆り立てるのは何？

LS　ダイヤモンド業者の 3代目として育ち、何年も宝石の仕事をしてきたわ。そして私自身のデザインと作品を作り始めた。それはゴージャスな母に感化されたもの。その情熱は、組み合わせの楽しみ、魅力的なデザイン、そして女性の個性美を表現する興味深い素材によってジュエリー産業に新しい光をもたらすように私を導いてくれた。

Q2　3代目を継ぐのでは、と言われていますが？

LS　私は最終的に家族のビジネスを継ごうとは思っていない。PRや芸術史から始めて、ファッションショーの仕事もしていたの。一時仕事の手伝いを頼まれたこともあったけれど、10ctの石を売っただけ。それがディーラーとしてのたった1回のキャリア。

Q3　作品における一番の思い出は？

LS　もちろん、今までにセレブとたくさんの素晴らしい瞬間を共有したけれど、顧客を幸せにしたのを見た時が最高の瞬間であると感じる。指輪を受け取った未来の花嫁から電話を受けた時、それはもう言葉にはできないほどだったわ。素晴らしい贈り物をもらった人の笑顔を見たり、人を心地よくさせ元気にさせた瞬間、表情が引き締まるものね。

Q4　今日の自分があるのは、どんな性格からだと思う？

LS　私は気後れすることなく意見を述べたり、顧客がどんな人なのかきちんと理解する能力がある。外出することや大胆なことが好き、そしていつも顧客とセレブ達にジュエリーのコーディネートや特別な時間を提供するのが好きなの。

Q5　あなたの慈善活動についてもっと教えてください。

LS　「あなたは、世界に恩返しができる唯一の良い人」というこ

Cindy Chao

Cindy Chao Art Jewels are the essence of wearable art. The organic and sculptural nature of Cindy Chao's handmade work (her father, a sculptor and grandfather, a renowned Taiwanese temple architect, certainly influenced her) favours generous proportions (hence the use of titanium in some of the biggest pieces), singular high carat and rare gemstones that are often nestled or suspended in settings that behave as if caught in a state of suspended movement. This contrast enhances the beauty of the stone, which sits in regal splendour in a fluid paved nest. In other words, the beguiling stones appear to emerge from a precious magma. In pursuing the merging of craftsmanship and artistry, Cindy Chao is famous for some iconic pieces (e.g. the butterfly, a growing series of brooches, one being created each year since 2008) alongside her latest `Black Label Masterpiece' jewels (the most prestigious of her creations).

It is worth noting that Cindy Chao's wonders are as much masterpieces as they are opportunities to see or learn something new. Over the past 14 years, her brand has been dedicated to educating collectors about the fusion of fine jewellery and art through the creation of simply sublime objets d'art, intoxicating sculptures that happen to be portable.

Olivier Dupon - What is the best memory you associate with your creations?

Cindy Chao - In my childhood I stayed at my sculptor father's side, learning to craft sculptures with him. When I became a jeweller, he and I worked in collaboration on the 2011 Black Label Masterpiece XVIII "Stag Brooch". The brooch features a rare hexagonal-shaped emerald of 10.07 carats and is paved with diamonds and coloured gems totalling 30.42 carats. After my father sculpted a true-to-life deer, I added my personal, abstract touch. Throughout the creative process, there were endless quarrels and conflicts among ourselves about the stag's form and mood, as we were both focused on our respective interpretation. However, I really enjoyed the moments we spent together struggling hard to find mutual resonance.

OD - Tell us more about your favourite traditional techniques and the ones you have developed in-house.

CC - My favourite traditional technique for jewellery crafting is definitely wax sculpting. This allows me to conceive a three-dimensional wax model in a 1-to-1 scale to the final art jewel. Rather than develop new techniques, I would say I attempt to push tradition to new limits together with my team.

OD - Can you tell us more about your Butterfly Series?

CC - A butterfly's life span is fleeting yet pure; it undergoes several transformations in a short period of time. This metamorphosis is similar to the one I have undergone as an artist, transforming and pushing myself to create and share something pure and beautiful; pushing limits to give life to something even more spectacular than the last creation. I have given life to a singular butterfly each year since 2008.

OD - What impresses most in your designs is how gemstones often seem suspended. What is the secret?

CC - When viewing my Art Jewels, such as the Winter Leaves Necklace and the Winter Leaves Brooches, some collectors also tell me that certain diamonds seem to float over the others as if they were not set on the same level. But they actually are! This visual effect is due to the fact that I often mix stones of different sizes. The setting angle for each of the gems is carefully calculated so that even though they are set smoothly on the same surface – when you touch it you do not feel any gap – together they accentuate the undulation and curvature of the jewellery pieces.

OD - Is there anything in your designs that makes them quintessentially Taiwanese?

CC - As a creator, I intend my jewellery pieces to break cultural, linguistic and geographical boundaries. The Majestic Beauty Fan that I created in collaboration with Forevermark (De Beers), for example, was inspired by fans in ancient China. It is one of the world's largest diamond installation artworks. There are nevertheless other non-visual elements in my design which I find typically Taiwanese and noteworthy. Persistency and perseverance is rooted in Taiwanese culture where people surmount every obstacle to attain their goals. When I create jewellery pieces, I never give up in the face of technical difficulties.

OD - How is it to be a woman designing (mostly) for women?

CC - As a female creator, I am highly aware of the jewellery wearing habits of women. Women are first of all fond of lightness. Heavy earrings are uncomfortable to wear, as are heavy brooches. For this reason, I constantly explore craftsmanship to reduce as much weight from my jewels as possible.

Nadia Morgenthaler

"I believe that I am a creative jeweller, who likes nice things and revels in technical challenges. This is why my creations are perfected in every way, not only their visible parts", Swiss fine jeweller Nadia Morgenthaler says. Although not nearly encompassing all of her talents, this quote sums it all up. How to reconcile beauty with complexity is her preoccupation, and as for any accomplished artist, this stems from an ebullient imagination. The whole creative process (design and making) is what occupies her mind and time in her quest to achieve perfection. Although subjective in regards to aesthetics, this notion can certainly be measured when it comes to quality, and there, Morgenthaler shines. At the helm of her own atelier, one of the most skilful in dealing and experimenting with the many challenges of high jewellery, she along her colleagues, incessantly breaks out of the mould. Behind the romantic softness of her current creations (although she eagerly points out that this is not set in stone as her aesthetics are not bound to one single concept) resides the utmost level of craftsmanship, alongside sophisticated pastel hues, ingenious mixing of metals, and rare natural pearls. This list of exquisite attributes defines the essence of Morgenthaler's creations, jewellery with the hallmarks of haute joaillerie minus the often-intimidating aura attached to it.

Olivier Dupon - What makes you passionate about jewellery design?

Nadia Morgenthaler – I am fascinated by how thought processes develop, from an abstract idea that emerges in my brain and triggers an emotional response, via the first draft sketch through to the crucial final making phases where it becomes a 3D tangible item, for which gemstones and pearls have been carefully chosen and calibrated. The end result is to achieve

perfection. It is only when the final product is a success that I am engulfed by an even greater emotion than the one I felt at the beginning.
OD - Is there still a 'link' between your past as a contemporary / conceptual jeweller and your present as a high jeweller?
NM – Yes indeed. There is continuity in terms of the creative approach. I have applied the same processes in both areas. With contemporary / conceptual jewellery, wearability or the value of the materials are not paramount. There is also a drive to push the boundaries of traditional techniques. This has definitely broadened my horizons and helped me devise clever technical solutions.
OD - Can you please tell us more about your atelier?
NM – My atelier is well known for the superlative quality of its work. My colleagues are ingenious experts, who are also very demanding about their own work. This is a level of quality that I expect from my partners and myself. Our workshop is a laboratory where we seek solutions. It was created 20 years ago and we can Cindy Chao create truly exceptional jewellery pieces.
OD - Blackened silver, red gold.... Can you tell us more about the difficulties and advantages of mixing metals?
NM – The cons reside in the fact that it is difficult to mix the two metals. Their melting point and tension are very different so that it causes them to distort. The pros are more cosmetic when it comes to the oxidised silver. The black hue adds character and enhances the gemstones. It also evokes an old world vibe. As for red gold, it reinforces the strength of a piece and helps finish it well. By contrast its colour also underlines the motifs.
OD - Although very delicate and pretty, each piece is a feat of craftsmanship. Do you have to educate your collectors so they understand this duality?
NM – Yes indeed. It is vital to communicate this aspect since it is the very quality of our work that confers its beauty and uniqueness to the jewel. Also all this intense craftsmanship takes time and although this is the very reason why the jewellery turns out to be highly precious, time is money.
OD - By the way, where does your love for natural pearls come from?
NM – I have always been fascinated by pearls, their softness and iridescence. They belong to fairy tales, the one thousand and one night reverie, Maharaja fantasy and Russian tsar decorum…they have always made me dream. Besides it is a gift from nature, no need to cut or process it in order to reveal its intrinsic beauty.
OD - Is there a historical inspiration behind your creative style?
NM – There must be more than one source of inspiration. When I was younger, the art of the Middle Ages interested me, and above all its representations in painting, clothing and jewellery. That said I am also inspired by metallic constructions (industrial buildings) and the 1900s architecture.

Bina Goenka

Unafraid of playing with bold volumes, Indian artist Bina Goenka is one of those rare high jewellery designers that manages to perfectly marry lavishness with intricacy, or as she puts it "the more intricate and complex, the more lavish the piece can become. You build on the levels of intricacy, making a piece that can never become boring. Like an objet d'art, you can keep finding more depths to it". Indian flair is never too far away with all its vibrancy and colourfulness, each one-of-a-kind creation is a statement of both originality and rarity; a magnified tribute to natural wonders that are akin to three-dimensional, bejewelled, visual metaphors. Interestingly Goenka creates fewer new pieces with each passing year, and says she will unveil no more than six important pieces this year, which will not take long to be snatched up. A couple of royal families and her other clients eventually become collectors. "As they learn more about the newest materials/gemstones that we are working with they trust us to find the best of what is available and then make exceptional pieces of high jewellery out of it," Goenka explains. After all this is what true high jewellery is, quality not quantity and the process it takes to achieve a wearable artwork.

Olivier Dupon - How would you best describe the Bina Goenka's creative philosophy?
Bina Goenka - For me, it is retaining the purity of natural design with the materials available, while instilling a designer's aesthetic.
OD - When did you know that this is what you wanted to do?
BG - Jewellery was not in my background, though I was always creative. Coming from a family of lawyers and academics, I studied criminal law and would have pursued this career, but marriage and family life intervened.
At that time creating jewellery was something I did for personal use. Thus, when I felt ready to take on a professional career, it felt like the most natural avenue to pursue.
OD - What is the importance of 'authenticity' in your work?
BG - Material authenticity is one of the most important factors. Provenance can also only be established through authenticity. The care and effort put into establishing true authenticity is what separates high jewellers from the rest of the industry.
OD - What is the best memory you associate with your creations?
BG - Creating a piece for my sister in law. It is one of the most beautiful pieces that I have ever made, and I find that there is nothing I would change about it!
Another is a brooch that I created in 2008. It is a Gecko called 'Richard'. He is a daily reminder of what is possible in the world of jewellery design, and now he is our brand mascot!
OD - What personality traits do you have that has led you to where you are today?
BG - Aside from creativity, and a clear sense of creative application, multiple traits have played a part in making this brand.
The most important of which, I suppose, is perseverance. It was never a choice to stop short of my ambitions; I have always approached each day with a mind-set of finding a solution. Another very important trait is patience.
OD - Is there anything in your designs that makes them quintessentially Indian?
BG - India is always inspiring – a melting pot of cultures, all in close proximity.
In India, there is an opulence of colour and grandeur visible almost everywhere. These two characteristics find their way into each of my designs, making them bold statement pieces.

almost everywhere. These two characteristics find their way into each of my designs, making them bold statement pieces.
OD - How have your work aesthetics changed/evolved since the beginning?
BG - Our work has become much finer, and the materials have become more precious. What we are now creating is art in fine jewellery.
OD - You seem to be constantly pushing your atelier so they surpass themselves. Tell us more about your favourite traditional techniques and the ones you have developed in-house.
BG - We have improved our techniques and opted for only handwork in each piece.
We love doing the delicate wirework, which is becoming Bina Goenka' s signature technique. We also enjoy working with pearls.
OD - Where does your predilection for rare pearls come from?
BG - I fell in love with them on first sight. I always get the feeling that I was meant to work with pearls; I now possess one of the most unusual and beautiful collections.

Eliane Fattal

It was sheer serendipity that turned Eliane Fattal into a treasure hunter, or should one say an alchemist who revels in the rebirth of forgotten jewels. Having studied art history at university and then trained in photography, she led a career as a photographer for twenty years before her jewellery adventures took over, almost by accident. Not finding the engagement ring she was looking for after trawling the Bond Street jewellers in the 1990s, and knowing that only something rare, beautiful and interesting would make the cut, she entered S J Phillips, the London Mecca for antique jewels, and "I fell in love with a large diamond pansy brooch and that was the beginning of it all" she muses. This sparked her long-term collaboration with the said London antique dealer, from whose archives Fattal unearths antique pieces of jewellery that she wondrously transforms. In short, Fattal lends a new lease of life to jewels that otherwise would slowly fade away. "The original jewel gives me all I need. I will indeed know immediately when I see a piece if I want to work with it and what I will do with it", she shares. Of course keeping the integrity of the artefact is paramount as is working closely with the London workshops to find the most sympathetic modifications. Naturally Fattal says she likes jewels that tell a story; it is what she calls "intelligent jewellery" and we could not agree more.

Olivier Dupon - What personality traits do you have that have led you to where you are today?
Eliana Fattal - Naivety and determination! I think to a certain extent my lack of training has allowed me to believe that anything is possible. My workshop goes far beyond being purely craftsmen; they are engineers and innovators and are as determined as I am to create magic.
OD - How did your collaboration with S J Phillips come about?
EF - After making a few pieces for myself and seeing people' s reactions I went back to the director of S J Phillips and suggested that they think about ways of connecting with a younger clientele. A couple of weeks later they called me in and suggested that I do a collection with them. I gave it some thought and agreed on the basis that I' d just do a few, that they would disperse the pieces in their vitrines anonymously and that it wouldn' t interfere with my work as a photographer. 6 months later we had a show of 22 pieces, an abundance of press all in my name! As the saying goes, if you want to make God laugh tell him your plans!
OD - Is it because you are an art historian that you feel it is important to reconcile past and present?
EF - My background in art history has definitely contributed to my path, as it was my interest in the historical pieces that led me to S J Phillips in the first place. I suppose I always felt a certain sadness seeing such beautiful pieces no longer relevant and loved.
OD - Why is flora and fauna so prevalent in your designs?
EF - Many of the pieces I work with are from the Victorian period when flora and fauna became fashionable – a reaction to the industrial revolution – and these motifs became prevalent throughout British culture: art, design, literature and horticulture itself.
OD - Vintage jewellery pieces often come with an added meaning (e.g. status, homage, secret message, declaration, etc.), how do you manage to retain their essence?
EF - Each piece comes in its own handmade book box. The book is a very important reminder that we are just a chapter in the lives of these historical pieces and their symbolism and meaning is immortalised in writing on the inside cover lest we forget. I also love the idea of keeping jewels hidden in book boxes on the bookshelf – there is something very Agatha Christie about it!
OD - Is the transformability of your pieces something that is already an aspect of the vintage pieces, or do you increase the possibilities while re-designing them?
EF - Transformability is a big part of my design process. The modern woman travels light and I love the idea of being able to go away for the weekend and be able to wear a piece, two or three times in different ways.
OD - How many vintage pieces do you review every year, and from these, how many will make the cut?
EF - I see everything that comes through the doors at S J Phillips and many of the pieces are signed or perfect as they are – I won' t touch those. Finding pieces I want to work with is hard – they are few and far between, which is why I make so few pieces a year.

Lorraine Schwartz

Yes, you can blink. It is impossible to miss Lorraine Schwartz' s creations, which are constant fixtures of all the major Hollywood red carpet events. A-list stars regularly wear the head-turning rivières and shoulder-dusting earrings of the house, strong designs that are an equal partner to whomever wears them. I can only imagine how empowering it must be to be reunited with one' s own glamorous Lorraine Schwartz piece. The flamboyance and freeing sense of 'who cares' should not hide the fact that behind each rendition is the selection of exceptional stones and a serious focus on glorifying the said gems. Evidently they are the starting point of every creations, which is not surprising given that Schwartz is a third generation American diamond dealer, in addition to

her formidable talents as a designer. It all comes down to generosity both physically (more is more in terms of carat weights and rarity) and metaphysically (Schwartz cherishes her collectors, she is also passionately involved in important charities). If anything, Schwartz' s legacy will be that of a designer who has helped toss out inhibitions when it comes to bold high jewellery, a woman who knows instinctively how to sensualise high carat / high octane jewels. Hers is a boldness, which helps women be in command of their own unabashed femininity.

Olivier Dupon - What makes you passionate about jewellery design?
Lorraine Schwartz - Growing up as a third generation diamond dealer I have worked with stones for years. I began creating my own designs and pieces, inspired by my mother who was ever so glamorous. This passion leads me to bring a new light to the jewellery industry by incorporating fun, charismatic designs and interesting materials that show a woman' s unique beauty.
OD - Have you always known you would pursue a career in your family business?
LS - I never thought I would end up pursuing a career in my family' s business. I started out doing PR and Art History and also working at fashion shows. At one point my family asked me to help out at the office. One day I ended up selling a 10-carat stone…and the rest is history!
OD - What is the best memory you associate with your creations?
LS - Of course I have so many extraordinary moments with celebrities but I truly feel that the best moment happens when I see my client happy. When I get that phone call from a bride-to-be who got her ring and is absolutely speechless; that look of absolute awe when given a fabulous gift; moments that make people feel good and empowered.
OD - What personality traits do you have that led you to where you are today?
LS - The ability to never be afraid to make a statement and the understanding of exactly who my client is. I love being outgoing and bold, always showing my clients and celebrities how to style pieces and creating those special, extraordinary moments.
OD - Could you tell us more about your philanthropic work?
LS - You are only as good as what you give back to the world! That being said, I am involved with quite a few foundations. Unfortunately my mother passed away from cancer over 15 years ago so much of my philanthropic work surrounds assisting those also affected by the disease. Two of the main charities I work with are Gabrielle's Angel Foundation and The Lung Transplant Project.
OD - In your career, you must have dealt with some spectacular diamonds. Could you describe some of them?
LS - Of course! I have dealt with some of the most beautiful and rare stones in the world like 60-carat pinks to 200-carat diamonds. I am obsessed with strong, gorgeous coloured stones like Paraiba, glowing Colombian emeralds, rare coloured diamonds and Padparadscha sapphires.
OD - High carat, rarity and quality meet ultra femininity. How are you able to reconcile the two aspects of financial and emotional investments?
LS - At Lorraine Schwartz Inc. we go out of our way to educate our clients about what they are buying. We connect our clients to their stone. We analyse and determine their desires and then deliver on them with expertise and more importantly care. When they are with us we make the experience special and significant. We add personalisation and special attention to our client' s pieces.
OD - The list of prominent A-listers wearing and collecting your creations is unrivalled. On face value this is a great achievement, however what is required to stay at that level?
LS - I always try and stay ahead of the game, creating the newest and coolest of pieces. We go above and beyond to make people feel as unique and special as they are. It is a mission of every moment.

Full interview on www.brandjewelryweb.com